



## 川口のお富士さん巡り

### 鎌田正彦

2018年3月31日(土) 北野忠彦、平野彰、大西攻、渡辺真一、鎌田正彦(報告)5人のメンバーが埼玉高速鉄道の川口元郷駅に10時30分に集合し、同駅から埼玉高速鉄道東川口駅までの途中駅で下車し川口市内5か所のお富士さん巡りを行った。

当日は天候に恵まれ気温20℃春爛漫の中最初のお富士さんのある川口神社を目指してスタートした。駅前には鋳物の街のイメージから一変して高層ビルが立ち並び街の発展を目の当たりにした。駅から国道122号に出、芝川を渡り15分ほど歩いたところで到着。

川口神社は元「氷川社」と称され930年平安時代の昔からの川口の総鎮守。桜が咲く境内に入るとすぐ左前方に小柄な鳥居がありその奥に高さ5mほどの富士塚が見えた。小岩で築かれた幅50cmほどのジグザグの登山道を登り大きな参拝記念碑の建つ頂上に立った。全員で記念撮影し下山。境内には鋳物師の守護神「金山神社」が祭られていた。



川口神社

本殿に参拝し川口元郷駅に戻り次の氷川神社の青木富士塚に向かった。

氷川神社は1860年江戸時代の築造。南鳩ヶ谷駅からバスで5分。大きな鳥居をくぐり境内に入ると小さな鳥居と青木富士塚が目に入った。浅間神社のお社に参拝し、富士遥拝所の石碑のそばから緩やかな石段の登山道を一回りして頂上に立った。そこには安産、子育て、家内安全のご利益が授かる母犬と子犬の「撫で犬」像が鎮座していた。境内には天神社、稲荷神社等々の神社が祀られていた。さらに社の裏に回ると直径が2m近くあろうかと思われる大樹「元氣の木」が祀られていた。この大樹に気を静め両手を広げて1分間抱きつくと大きなパワーが得られると

のこと。順番待ちしながらも皆で抱きつき、元気を頂いて本殿に参拝、南鳩ヶ谷駅に戻り次の神根富士塚に向かった。



青木富士塚(氷川神社)

神根富士塚は新井宿駅からグリーンセンター脇の見沼代用水東縁を経て徒歩30分。見沼代用水は江戸時代の中ごろ見沼の広大な沼沢地の新田開発の目的で利根川から60kmに亘って新たに構築された2本の運河(見沼代用水東縁と沼代用水西縁)で下流は荒川に繋がっている。13時過ぎ用水堤防の満開の桜の下で少し遅い昼食をとった。入り混んだ道を辿ってお富士さんに到着したものの、

現地はちょうど工事中で富士塚は解体されて登頂は出来なかった。富士塚を構成していた岩や石碑が一か所に纏められて



いたので記念に写真に収めた。川口市立医療センターまでバスで引き返し。再び歩いて新井宿駅に戻って次の東沼神社の富士塚に向かった。

東沼神社は東川口駅からバスで約10分、差間二丁目バス停から歩いて5分。天正元年(1573年)以前に浅間神社として創立され、明治40年に今の東沼神社に改称された。境内に入ると円錐形をした富士山にそっくりな高さ8m、裾野30mの富士塚があった。神社の立て札によると2012年にこれまで風雨によって壊れた富士塚を富士山の縮尺五百分の一の「見沼の富士山」として復元されたもので

あり、頂上からは遠く富士山を望み日の出を拝むことが出来るとのこと。実際頂上に立つと足元の土はフワフワとし



東沼神社

ており、裾野まで背丈の低い草に覆われて、いかにも若々しい富士山を感じた。本殿を参拝しお神酒を頂いたあと次の木曾呂の富士塚に向かって見沼代用水東縁を歩いた。川沿いには満開の桜が延々と続いていた。用水は満水に近い水を湛え、川面には桜の花びらがびっしりと浮かび滔々と流れていた。緑に包まれた川口自然公園の前を通り過ぎ、用水を挟んで左手に森、右手に畑、さらに遠くにJR武蔵野線を見ながら長閑な田園風景の中を進んだ。やがて用水を渡り民家の間を通り抜け小高い森の上の木曾呂の富士塚に到着した。

木曾呂の富士塚は東沼神社から見沼代用水東縁を歩いて30分。寛政12年(1800年)に見沼代用水と通船堀の連結点の縁に築造され、高さ5.4m、直径20mの盛土で出来ている。麓の崖から距離は短いがかなりきついゴツゴツ道と、一方には緩やかな石段の登山道が有る。頂上に立つと周囲は雑木の根が所狭しと這い、中央部は皿の

ように凹み、富士山頂のお鉢めぐりが出来るようになっていた。遠くには用水を超えに川口の田園、街が望める。麓を眺めると小さなお社と鳥居が見えた。登山道の入口の崖には今は塞がれているがお胎内があった。記念撮影をして下山。お社を参拝した後、木曾呂富士塚から見沼代用水東縁を渡り通船堀東縁を歩いた。通船堀は享保16年(1731年)2本の見沼代用水とその間を流れる芝川とを繋げるために作られたわが国最古の閘門式運河(通船堀東縁、通船堀西縁)で、その間の3mの水位差を調整することにより船を運行させ芝川、荒川を経て江戸との物資の輸送に利用された。通船堀東縁から芝川、水神社、通船堀西縁を経て見沼代用水西縁を歩き、17時頃東浦和駅近くの用水堤防の桜の下でビールで乾杯した。

今年の桜は早く咲き始め、今日はどこも満開で絶好の花見を楽しんだ。18時に東浦和駅で解散した。



木曾呂富士塚

連載・上信の峠路 ⑤

## 奥秩父一唐松尾・黒槐北面林道 その1

富永 滋

### 【概要】

大洞川源流を辿るかつての大洞林道の存在は、原全教の大著「奥秩父」を始め多くの文献により知られているが、滝川源流をめぐる林道については殆ど知られていない。しかし、大洞林道同様の大規模な林道(営林署の巡視歩道)が、御殿岩とリンノ峰西 1940m圏小峰の鞍部に始まり、唐松尾、黒槐、笠取の北を巻いて、雁峠の直下を通過し、古礼沢、水晶谷を渡って、釣橋小屋上まで作設されていた。このうち雁峠下～釣橋小屋上の西半分は水晶歩道と呼ばれたが、御殿岩東～雁峠下の東半分は知られた名がないので、ここでは「唐松尾・黒槐北面林道」と仮称する。この林道がほとんど人目に触れなかったのは、一つには昭和30年代の開通と明治末期の大洞林道に比べ遥かに新しいこと、一つには文献が極めて少ないことが理由であろう。また遡行者にとっても、この林道と交差する最も主要な沢が枝沢(熊穴沢)のみであり、利用価値がないに等しかったと思われる。

### 【林道開設の背景】

沿道では、まず初めに昭和24～27年に笠取山が伐採された。他の部分も第六次経営案第一分(昭和30～34年)の択伐地域に指定されていたが、続く第一次～三次経営計画(昭和33～44年)では、幸いにも伐採地域に指定されなかった。当時営林署は中津川流域の開発に注力しており、滝川流域は搬出の便を考え国道140号の開通待ちとして先延ばしになっていた。昭和30年に秩父多摩国立公園の特別地域が指定されたことも影響したことであろう。しかし将来の開発を睨んで、第一次～二次経営計画の時期に歩道の整備が先行して進められた。





**【開設時期】**

この林道の開通時期に関しては、昭和 32 年に開通した唐松尾北尾根の林道に関する、昭和 34 年の河野の記事、35 年の内野の記録に、交差するはずのこの道に関する記述がなく、昭和 38 年の秩父営林署管内図に記載されていることから、昭和 36、7 年頃と推測される。昭和 39 年、奥多摩山岳会の内野暢雄らは、唐松尾北尾根下降の際、黒岩新道を外して上黒岩で行き止まる尾根通しの枝道に入ってしまった。上黒岩で道を失ったため、道搜索の過程で、その少し上で見た尾根道より良い道に足を踏み入れてみたのである。内野は、「クロエンジュの頭に向って枝沢上部をからむ立派な道が出来ていたので、これに入って見た」と述べており、それがこの林道であった。記録を見ると彼らは黒槐方向へ恐らく数百米ほど進んでから、違うと気づき引き返している。「新しい道」、「立派な道」の表現から、当時は出来たての良い道であったことが伺える。昭和 45 年の溪嶺会・高橋泰一の記事では、枝沢遡行の帰路にこの林道の使用を推奨している。枝沢から雁峠まで30分というから、道の状態は極めて良かったようだ。この二つが知る限りで全ての文献である。

**【位置】**

この道は、およそ 1800m 付近を水平に走っていたというが、管内図の大雑把な破線の引き方からは到底正確な経路を推定できない。幸い数少ない文献から、ある程度の経路が推測できる。

まず御殿岩側だが、「地形図上唐松尾の東ノ肩、五万分の一地形図の 1940m のコンターのあたりに唐松尾の北側にまわりこむ踏跡がある」と説明されている。当時の地形図と見比べれば、それが御殿岩とリンノ峰西 1940m 圏小峰の鞍部付近であることがすぐ分かる。管内図も同様に、山ノ神土から仙波ノタルに向かってトラバースする大洞林道支線がちょうど稜線に出る地点を示している。



唐松尾北尾根との交点は、奥多摩山岳会の記録では黒岩(上黒岩、1970m 圏岩峰)の少し唐松尾寄りとされる。地形の非常な急峻さから付近の林道通過は困難と思われ、

百数十メートル藪止ノ頭寄りの 1980m 圏あたりを通過するものと推測される。また高橋が「唐松尾山頂から下ってきた踏跡と合し」と述べたのは、恐らく内野がその道を下って上黒岩で行き詰まった、昭和 3、40 年代にあったと思しき、唐松尾から尾根通しに上黒岩まで続く道のことであろう。この道は笠取小屋の田辺静氏が、昭和 45 年前後に小学校の遠足で上黒岩に行ったとき通った道でもある。



枝沢との交点は、溪嶺会の詳細な遡行図に明記されている。枝沢は 1650m 圏二股の屈曲点を過ぎると、黒槐ノ頭まで一直線に詰め上がる。1680m 付近の滝場を抜けると、左岸に続けざまに五本のガレを入れる。その上でこの林道に出会う。左岸のガレが終わるのが 1900m 付近であり、二股から林道出合まで一時間というので、林道は 1920m 付近で枝沢を渡ると考えられる。

通り尾根との交点は、奥多摩山岳会の内野が記録している。内野らが通り尾根を登った際、唐松尾北尾根の黒岩と燕山とを結ぶ線を横切る地点で大休止し、その五分もかからぬ僅か上で林道が交差していたという。しかし当時の地形図は細部の地形に意外と大きな歪みが含まれており、例えば黒岩と燕山の位置はほぼ正しいが、通り尾根のこの付近の地形は実際より約百米南にずれて表示されているなど、地形図を基準に説明した位置を信用することはできない。そこでコースタイムで考えてみたい。内野ら三名の奥多摩山岳会隊は、通り尾根 1477m 独標、大休止点、林道交点、2020m 圏峰、黒槐西鞍部間の四区間を、それぞれ 1 時間 15 分、5 分、20 分、20 分で歩いている。前半は激しい笹ヤブ、後半はシャクナゲヤブと倒木に悩まされたというので、全体的に凡そ同ペースで登ったものと仮定できる。著者が最近この区間を登った所要時間は、50 分、4 分、20 分、10 分だった。ただし大休止点は尾根上で珍しく緩い笹原となる 1850m 付近、林道交点はその付近を水平に横切る痕跡がある 1880m 付近と仮定する。また通り尾根道は、厳密に 2020m 圏峰の頂上を通らないため、その付近の通過時間は個々の判断によりある程度の誤差を含むことだろう。両者の所要時間を比較すると、軽装の著者の方が短い、時間配分として概ね合致していることから、やはり仮定どおり、林道交点は 1880m 付近と考えて良いと思われる。

この後、林道は笠取山北面の岩壁を巻きながら、通り尾根から雁峠手前の斉木林道出合までに林道は高度を約 80m 落とし、雁峠に至る。管内図により、笠取小屋付近で甲武国境を越えた旧斉木林道に笠取山北面のヘアピンカーブで合流することが、見て取れる。

(つづく)

**山行報告** 「関東ふれあいの道」GPS 山行 神奈川県⑬  
**山里から津久井湖への道**



**鎌田正彦**

今回は交通の便の関係でタイトルとは逆コースで実施した。行程は津久井湖から城山と雨乞山を経て津久井町長竹の葦尾根バス停までの10.3km。メンバー8名がJR橋本駅バス停1番乗場に9時に集合し神奈中バス三ヶ木行きに乗り城山高校前で下車。

津久井湖を右に見て城山ダムを渡り、10分で津久井湖「花の苑地」に到着した。この場所は対岸の「水の苑地」と共に春は桜の名所としてよく知られ沢山の花見客が訪れる。小休止の後準備を整え目の前に迫る城山山頂を目指して出発した。登山道はなだらかな階段から、ヒノキ林を経て山腹を巻きながら進んだ。後ろを振り返ると津久井湖の向こうに今年2月に実施した神奈川⑭「峰の薬師への道」の山々が見えた。途中急坂や鎖場で息が上がったりしたもの、よく整備され新緑の中を気持ちよく登る事が出来た。時折小鳥のさえずりが聞こえてきた。40分ほど登りつめた375mの山頂には鎌倉時代に三浦氏一族の築井氏により築城された津久井城の城跡があった。武蔵の国と甲斐の国に接する軍事上の要衝であったが天正8年(1580年)豊臣秀吉の小田原攻めに伴い落城した。今は本城曲輪、土塁、堀切、烽火台、宝ヶ池等が残され往時の面影がしのばれた。築井古城記碑の前で全員で記念撮影し、登ってきた道とは反対側の男坂を経由して根本まで下った。



城山(築井城)古城記碑にて

この地区は根小屋地区と言われ、城主の館、家臣の屋敷、馬屋等が配置された城下町であった。ちょうど昼時になりパークセンターのベンチで昼食をとった。食後根小屋地区のただらとした車道を下って県道に出た。すぐそばを流れる串川にかかる平井橋を渡ると雨乞山への登山道となる。登山口の手前で一軒の大きな旧家の軒先に酒蔵

の幟がはためいていた。こんな山の中にと思いつつ中に入り話を伺うと1844年の創業以来の造り酒屋で、丹沢水系の湧水を使って純米吟醸造り銘酒相模灘を造っているとのこと。登山口から竹林の中を通り15分ほど登ると明日原の畑地に出た。暫らくのあいだ平坦な農道や民家の間を通り抜け、尾根道を30分程登ったところで小休止。そこで突然メンバーの一人が山蛭を発見、ちょっとした騒ぎとなった。長居は無用と再出発。木の根の張る急坂を15分ほど登ると頂上に着いた(↓写真)。



頂上には標高429mの標識はあるものの狭い平坦地で周囲の展望は無かった。頂上から20分ほど下ると広いのどかな里山に出た。

城山、雨乞山を後ろに見ながら農道を歩くと関東ふれあいの道⑪「北条竹田合戦場のみち」との分岐点に出た。やがて葦尾根バス停に到着。三ヶ木方面へのバス便が少なく、国道412号を逆方向に半原バス停まで歩いた。途中山向こうの宮ヶ瀬ダムへの標識や丹沢名物の揚げパン製造工場があった。半原バス停から小田急本厚木駅まで50分。駅そばの焼鳥屋さんで反省会をして夕刻解散した。

2018年5月12日(土)快晴。

行程：橋本=バス=津久井高校=津久井湖=城山(津久井城)=根本=平井橋=雨乞山=葦尾根=半原=バス=本厚木  
 参加者：8名(北野、近藤、今井、片野、大西、渡辺、鶴田(泰)、鎌田)

**おしらせ**

◆ 地形図の登山道修正

国土地理院では、地形図の登山道を修正するために、登山者の移動経路情報などのビッグデータを活用して修正作業を進めています。現在まで南北中央、アルプス、屋久島の主要な部分の修正が完了し6月中旬に地理院地図で公開を始めます。修正結果に対して間違いや、気づいた点などの情報を求めています。下記確認サイトで修正内容をご覧できます。アクセス用のIDとパスワードが必要ですので、ご希望の方は近藤までメール連絡ください。

<https://timei.gsi.go.jp/tozando/index.html>

◆ 展示会開催

企画展「山を知る」地図と測量の科学館

2018年7月25日(水)～10月14日(日)

国土地理院「地図と測量の科学館」2階特別展示室

AGCの皆さんが提供した写真のいくつかが展示されるかもしれませんよ。楽しみに！

AGCレポート vol-62 2018年6月22日発行  
 発行：日本山岳会・山岳地理クラブ(代表・北野忠彦)  
 〒102-0081 東京都千代田区四番町5-4 日本山岳会 気付  
 TEL 03-3261-4433 FAX 03-3261-4441  
 編集担当：近藤 E-mail: yoshi-kondo@jcom.home.ne.jp